日本のインターネットは 本当にロバストだったのか

石田慶樹

概要

- 3月11日に発生した東日本大震災においても、 日本のインターネットは内外からロバストであった との評価を得た。しかし、実際には被災地におい てはインターネットを含む通信網の全断が発生し ており、また首都圏を含む周辺地域でも大きな影響が出たために綱渡りの状態であった局面も少なくない。
- 本セッションでは局面ごとで何が起こっていたかをサーベイしつつ、今後起こりうる天災に対してよりロバストにするためには何をなすべきかについて議論したい。

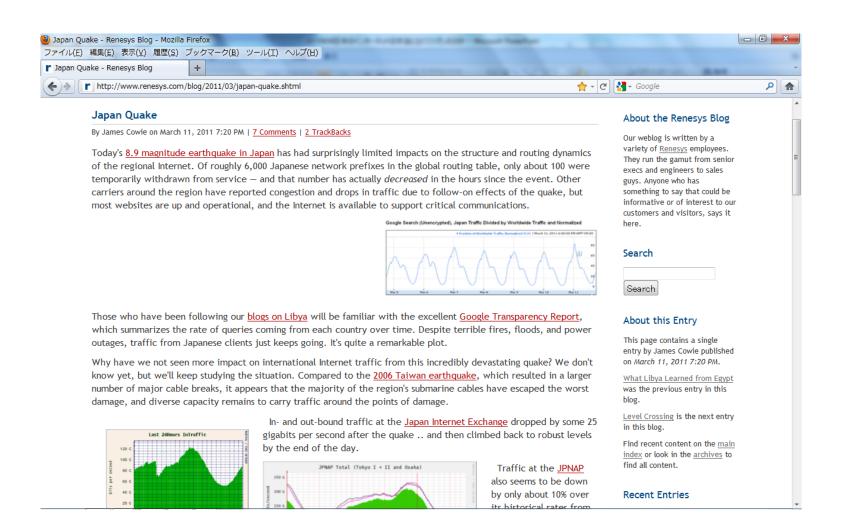
東北地方太平洋沖地震

2011/3/11 14時46分18 三陸沖を震源

東京都内の状況

- ・震度:5強の本震と5弱の余震
- ・インフラの状況
 - ・電力:都心部では長時間の停電発生せず
 - · 交通:JRは終日停止. 私鉄は夜間一部再開
 - ・通信網:無線有線とも回線交換網で輻輳

Renesysのレポート



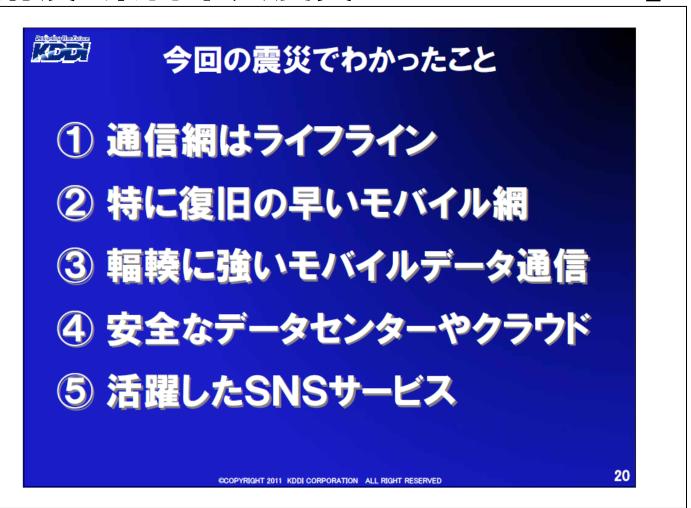
インターネットコンファレンス2011

http://www.internetconference.org/

* 開催にあたって

2011年3月11日に日本を襲った東日本大震災は、 東北関東地方に甚大な被害を与えた未曾有の災害と なりました。電話回線が混雑し利用が困難になる中、 twitterやSkypeなどのインターネット技術が個人の安否 の確認に大きく貢献したと言われています。また、テレ ビやラジオなどの公共放送では伝えきれない地域密着 型の被災地情報、復旧情報などのやりとりにもtwiiter などのマイクロブログ、Googleマップなどを用いたマッ シュアップ技術などが活用されました。日常のICT活用 に留まらない、非常時でのインターネットの有効性が図 らずも示された事例となりました。

2011年6月13日「世界ICTサミット2011」 KDDI田中孝司社長 基調講演「東日本大震災とこれからのICT」より



http://www.ict-summit.jp/2011/pdf/0613amMr.Takashi_Tanaka.pdf

インターネットは

- ・物理(L0/L1)接続が維持されている限りにおいて論理(L2/L3)的に迂回路を設定したりバイパスを構築することは容易
- ・「損耗」が発生した場合に復旧のためにリソースを投入し物理接続の回復を行う実力がインターネットにあるのか?
- 特に大量の物量が必要とされる場合にはどうか?

「損耗」とは 使って減ること。また、減らすこと。

全体の流れ

- ・ イントロダクション 石田
- · IX/IDC 石田
- 国内バックボーン 吉田さん@NTT
- ・ 国際回線 石井さん@パックネット
- ・アクセス網 秋山さん@NTT東日本
- ・全体俯瞰

議論点

- インターネットをよりロバストにするためには何 をしないといけないか
- ・それを実現するためのリソースはどのようにすれば確保できるか
- ・ 外部との協調について